【第 33 回大会個別発表抄録】

家族関係の変化をバランス理論から捉える試み

萩臺　美紀（東北大学大学院）
小林　千緩（岩手大学大学院）
奥野　雅子（岩手大学）

本研究は家族関係の変化をバランス理論から捉える試みである。家族関係には変化が伴う。それは、結婚、子どもの誕生、親や子どもの成長といった発達に伴う家族成員の関係性の変化を指す。そのような中で、家族関係の変化による悪循環が生起する場合がある。その一つには母子密着・父親不在という状況がある。ここでいう「父親不在」とは仕事などで家を不在にする物理的不在だけではなく、心理的・機能的不在も含み，母子密着とともに子どもや親子関係が抱える様々な問題の要因として議論されてきた（尾形,2011）。例えば、父子の不和は子どもの情緒不安定さや自尊心の低さと関連することが示されており（前島・小口,2001）、一方で、母子の密着は女子青年の自立を阻害することが示されている（水本・山根,2010）。このように母子が密着する状態は父子関係の希薄さを助長し，さらに母子密着が進むというように、相互に家族の病理をエスカレーションしていくリスクがあるといえる。つまり、母子密着・父親不在という悪循環を断ち切る、または予防していくことは重要であるといえる。

このような３者関係の問題を扱うにあたり、本研究ではバランス理論を取り上げる。バランス理論とは、Heider（1958）が提唱した社会心理学の概念であり、人や物で構成される3 者関係の認知やその変容によって 3 者がバランス状態に導かれることを説明する。これまで、バランス理論は家族の 3 者間について説明する枠組み（野口・若島,2007）、コミュニケーション・パターンの変化を説明する枠組みとして援用されてきた（狐塚・若島,2009）。また、小林・奥野（2016）では、短期・家族療法で行われるような、その場にいない第 3 者の問題に対する解決を探る場面を間接的援助と名付け、間接的援助のモデルについてバランス理論の観点から考察を行っている。これらの研究は、3 者関係において、コミュニケーションを意識的に変化させることで、３者の関係性にも変化が及ぶことをバランス理論を用いることによって示唆している。

そこで、本研究では、母子密着・父親不在という悪循環の切断・予防する方法について、バランス理論を援用し検討する。特に、母子密着・父親不在家庭に着目した萩臺・奥野・若島（2016）では、母親が父親の良好なイメージを伝えることが、子どもの父親イメージの向上に効果的であることを示唆している。したがって、母親が子どもに父親イメージを伝えることが家族関係にどのような変化をもたらすのかについて理論的に検討し、考察を加えることを目的とする。

母子密着・父親不在家庭において、バランス理論を援用すると、母親が父親の良好なイメージを伝えることは、父子関係を正にするコミュニケーションといえる。また、母子関係が正、父子関係が正になれば、負であった父母関係がバランス状態に導かれ正になり、３者関係が良好に変化することが示された。一方で、たとえ父母関係が正であっても母親が父親の悪口を言うことで、家族関係が不和に傾く可能性も示唆された。したがって、家族は発達段階に伴って耐えずコミュニケーションが変化し続けていることが示唆され、子どもの成長に伴ってコミュニケーションを変化させていくことが重要だといえる。